

## 1. 産業医学総合研究所刊行・発行物

名 称	発 行	規格,部数	主な配布先・内容
1) INDUSTRIAL HEALTH *			
Vol.41 No.2	2003. 4	A4, 123 頁	配布先:厚生労働省関係機関,日本を含む世界各国の大学・研究機関・図書館,民間企業. 内 容:英文原著論文を主とした国際学術季刊誌,年4回発行.
Vol.41 No.3	2003. 7	A4, 174 頁	
Vol.41 No.4	2003. 10	A4, 63 頁	
Vol.42 No.1	2004. 1	A4, 87 頁 各 1,300 部	
* 編集委員を次頁に掲載			
2) 産業医学総合研究所年報,平成14年度版	2003. 12	A4, 220 頁 1,000 部	配布先:厚生労働省関係機関,大学,研究機関,図書館. 内 容:平成14年度研究成果の紹介.
3) 産医研ニュース			
第11号	2003. 4	A4, 各8頁	配布先:厚生労働省関係機関,大学,研究機関,図書館. 内 容:産医研の研究活動・社会貢献・その他の紹介.年2回発行.
第12号	2003. 10	2,200 部	
4) 中小企業戦士の「心・技・体」,初版,中田光紀(産医研),池田智子(東邦大),北条稔(大田地域産業保健センター)	2003. 8	B5, 6 頁	内 容:労働者の健康・ストレス問題の解消法を簡潔に解説
5) Action Checkpoints for Comfortable Computer Work, First Edition, National Institute of Industrial health	2004. 2	A4, 8 頁	内 容:パソコン作業を快適に行うための要点,改善方法を解説(英語版).
6) パソコン利用のアクション・チェックポイント,初版,独立行政法人産業医学総合研究所 情報化職場研究チーム	2004. 2	A4, 8 頁	内 容:パソコン作業を快適に行うための要点,改善方法を解説.

## Industrial Health 編集委員一覧

---

<i>Editor-in-Chief</i>	Shunichi ARAKI
<i>Managing Editor</i>	Naomi HISANAGA, Junzo SAEGUSA
<i>Advisory Editors</i>	Shixiong CAI, Ho-Keun CHUNG, Philippe GRANDJEAN, Masayuki IKEDA, Kaye H. KILBURN, Reiko KISHI, Bengt KNAVE, Kazutaka KOGI, Akira KOIZUMI, Shigeji KOSHI, Philip J. LANDRIGAN, Holger LUCZAK, Choong Nam ONG, Kathleen M. REST, Haruhiko SAKURAI, Thomas J. SMITH, Tsutomu TAKATA, Yasuhiro TAKEUCHI, Isamu TANAKA, Gerhard TRIEBIG, Osamu WADA, Sohei YAMAMOTO, Itaru YASUI
<i>Editors</i>	Takashi HARATANI, Mamoru HIRATA, Takeshi HONMA, Hideki IGISU, Seong-Kyu KANG, Norito KAWAKAMI, Yang-Ho KIM, Norihiko KOHYAMA, Shinji KOIZUMI, Shinji KUMAGAI, Lumie KURABAYASHI, Roberto LUCCHINI, Muneyuki MIYAGAWA, Toshihiko MYOJO, Yasutaka OGAWA, Katsumi OHTANI, Akira OKAYAMA, Tsutomu OKUNO, Krishna Gopal RAMPAL, Susumu SAITO, Tadashi SAKAI, Hisataka SAKAKIBARA, Kazuhito YOKOYAMA, Ruisheng WANG
<i>Editorial Secretaries</i>	Lumie KURABAYASHI ( <i>Vol.41, No. 2</i> ), Mamoru HIRATA ( <i>Vol.41, No. 3, 4, Vol.42, No. 1</i> ), Hitoshi KUBOTA

---

## 2. ホームページ

産業医学総合研究所のホームページ(URL は, <http://www.niih.go.jp>) は, 本研究所の研究成果をはじめとする諸情報を多くの利用者に提供するとともに, 広く社会から研究所業務への意見や要望を収集するために平成 8 年 6 月に開設された。平成 15 年度には, ホームページを利用しやすくすることはもとより, 更なる内容の充実を目的に各種更新作業を行った。平成 16 年 3 月 31 日現在のホームページの構成は以下のとおりである。“産業医学総合研究所のご案内”, “研究部の活動”, “産医研ニュース”, “研究情報”, “研究業績・成果”, “外部評価の結果”, “年報”, “国際学術誌 Industrial Health”, “これからの日本の労働衛生研究戦略”, “独立行政法人としての公表事項”, “情報公開”, “研究施設ご利用のご案内”, “新着情報”, “お知らせ”, “関連サイトへのリンク”, “検索機能”, “利用者からの意見・質問・要望等の受付窓口”。

平成 15 年度は, 平成 16 年 3 月に研究成果物として「パソコン利用のアクションチェックポイント」を掲載した。その他については, 昨年度にホームページの大幅な刷新を行ったことから, 主な内容・体裁に関する大きな変更点はなく, 年間を通じて適宜, 各種催事の開催案内, 定期掲載物・各種報告結果の追加掲載, 一般競争入札の告知などの更新作業を行った。

今年度のホームページ総アクセス数は 622,659 件であり, 日本語ページにおけるコンテンツ別の内訳は次の通りであった。1 位が“国際学術誌 Industrial Health”, 2 位が“研究情報”, 3 位が“研究業績”, 4 位が“年報”, 5 位が“産業医学総合研究所のご案内”, 6 位が“情報公開”, 7 位が“産医研ニュース”, 8 位が“21 世紀の労働衛生研究戦略”, 9 位が“産業医学総合研究所に係わる公表事項”, そして 10 位が“お知らせ”であった。

info@niih.go.jp に寄せられた「問い合わせなど」の電子メールは, 国内 71 件, 国外 34 件であり, そのうち「研究ニーズの把握」に関わる電子メールは国内の 18 件であった。なお, 研究所の研究成果に関わる「問い合わせ」は, 国内 29 件, 国外 16 件であった。

## 3. テレビ, ラジオ放送, 新聞等

### (1) テレビ放送

発表先	氏名
1) 東海テレビ「アスベスト」 平成 15 年 7 月 5 日	久永直見

### (2) 新聞等

発表先	氏名
1) 朝日新聞「受動喫煙は免疫に影響」 平成 15 年 5 月 31 日夕刊	中田光紀
2) 日本経済新聞「女と時間と日本経済」1/3 の攻防 平成 15 年 6 月 4 日	高橋正也
3) 朝日新聞「オトナの総合学習」昼寝の主張 平成 15 年 7 月 26 日	高橋正也

発 表 先	氏 名
4) 日経 BP エキスパート社ホームページ 働く人のパニック障害 平成 15 年 3 月	倉林るみい
5) Medical Tribune「第 76 回日本産業衛生学会」 平成 15 年 5 月 29 日	高橋正也
6) 日経インテリッセ「からだにいいこと流行ってます」Vol. 14 眠りの質を知る 平成 15 年 6 月	高橋正也
7) ASAHI パソコン「子どものパソコン利用環境」 平成 15 年 7 月 1 日号	斉藤 進

## 4. 講演会の開催

### (1) 労働衛生重点研究推進協議会シンポジウム

産業医学総合研究所が主宰する「労働衛生重点研究推進協議会」の活動の一環として平成15年11月7日に新宿安田生命ホールにおいて第3回公開シンポジウムを開催した。この労働衛生重点研究推進協議会シンポジウムは、「21世紀の労働衛生研究戦略」がどのようなもので、これからの約10年間にどのように効果的に戦略を推進していくかを講演とディスカッションを通して考える場である。

当日は230余名の参加者を得た。今回の講演は「重点領域：産業社会の変化により生ずる労働生活と健康上の課題に関する研究領域」に含まれる「作業関連疾患の予防」および「高齢者の労働適応能力の評価」（講演の「脳卒中と労働衛生：作業関連リスクを中心に」および「高齢者の労働適応能力の評価」）、「重点領域：職場有害因子の生体影響に関する研究領域」に含まれる「複合ばく露」と「健康影響の個人差」（講演の「ストレスおよび喫煙、多飲酒の複合曝露と遺伝素因一くも膜下出血をモデルとして」）、「重点領域：リスク評価と労働安全衛生マネジメントシステムに関する研究領域」に含まれる「リスクコミュニケーションの効果的な進め方」および「労働生活の質の向上とヘルスプロモーション」（講演の「GHSにおけるハザードコミュニケーション-ラベル表示とSDS」および「働く人とヘルスプロモーション」）に関する内容を取り上げた。これにより3年間のシンポジウムで18優先研究課題それぞれに関連した講演またはディスカッションを行ったこととなった。また18優先研究課題について、特別報告「日本における労働衛生研究の現状分析」ではその実施状況が報告され、パネルディスカッション「労働衛生重点研究の推進」では今後の方策が検討された。

演題名	講演者(所属)
-----	---------

挨拶	櫻井治彦会長（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長）
----	----------------------------------

挨拶	中林圭一（厚生労働省労働衛生課長）
----	-------------------

#### 「優先研究課題講演」

座長：高田 昴（労働福祉事業団医監・中央労働災害防止協会技術顧問）

#### 1) 脳卒中と労働衛生：作業関連リスクを中心に(重点領域)

黒岩義之（横浜市立大学医学部教授）

#### 2) 高齢者の労働適応能力の評価(重点領域)

山本宗平（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター技術顧問）

#### 「特別報告」

座長：河野啓子（東海大学健康科学部看護学科教授）

#### 3) 日本における労働衛生研究の現状分析

福田秀樹（独立行政法人産業医学総合研究所主任研究官）

#### 「優先研究課題講演」

座長：竹内康浩（老人保健施設かいこう施設長）

#### 4) ストレスおよび喫煙、多飲酒の複合曝露と遺伝素因一くも膜下出血をモデルとして(重点領域)

演題名	講演者(所属)
	小泉昭夫 (京都大学大学院医学研究科環境衛生学分野教授)
	座長: 藤木幸雄 (日本産業衛生学会理事長)
5) GHSにおけるハザードコミュニケーション - ラベル表示とSDS(重点領域)	池田良宏 (日本化学工業協会 化学品管理部部長)
6) 働く人とヘルスプロモーション(重点領域)	埋忠洋一 (UFJ 銀行東京本部健康管理センター所長)
「労働衛生重点研究の推進に関するパネルディスカッション」	
司会・基調報告:	櫻井治彦 (会長・中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長)
パネリスト:	中林圭一 (厚生労働省労働衛生課長)
	高橋信雄 (JFE スチール安全衛生部主任部員)
	上野満雄 (自治労安全衛生対策室顧問)
	野見山一生 (栃木産業保健推進センター所長)
挨拶	荒記俊一副会長(独立行政法人産業医学総合研究所理事長)

## (2) 産業医学総合研究所国際セミナー

### 第1回産業医学総合研究所国際セミナー (平成15年9月1日, 産業医学総合研究所)

#### 「全身振動の評価と労働衛生対策」

演題名	講演者名
1) 米国国立労働安全衛生研究所(スポケーン)における全身振動に関する研究	Nanda Kumar Kittusamy (米国国立労働安全衛生研究所)

### 第2回産業医学総合研究所国際セミナー (平成15年11月13日, KKRホテル東京)

#### 「進むオフィスの情報化と新しい労働態様 - 働く人の健康の視点から - 」

演題名	講演者名
1) スウェーデンのコールセンターにおける労働条件と健康	Allan Toomingas (スウェーデン国立労働生活研究所)
2) スウェーデンにおける作業関連疾病休業に関する考察	Staffan Marklund (スウェーデン国立労働生活研究所)
3) オフィス環境におけるセカンダリースペースの意義	Nagy Gabor (大阪大学大学院)
4) より快適なオフィスワークをめざして - 産医研情報化職場プロジェクトの成果と将来への展望 -	岩切一幸, 毛利一平 (産医研)

第3回産業医学総合研究所国際セミナー（平成16年3月23日，東京産業保健推進センター）  
「日本における職務 - ばく露マトリックスの構築と活用を目指して」

演題名	講演者名
1) 職業疫学研究における職務 - ばく露マトリックス(JEM)の意義 - 日本におけるJEM構築のために -	毛利一平(産医研)
2) 職務 - ばく露マトリックス - 予防、リスクアセスメント、疫学研究のためのツール	Timo Kauppinen(フィンランド労働衛生研究所)

(3) その他

特別講演会(平成15年10月22日)	
1. Occupational Safety and Health Issues in Malaysia; Current status	Norazman Bakrun(マレーシア NIOSH)

特別講演会(平成15年11月20日)	
1. 福祉工学のすすめ	宇土 博(広島文教女子大学)

特別講演会(平成16年2月20日)	
1. 精子・精巣・生殖毒性試験法の現状と課題	川島邦夫(元 国立医薬品食品衛生研究所，現 パナファームラボラトリーズ，アーンストハンセン商会，化学物質評価研究機構)

特別講演会(平成16年3月24日)	
「Job-Exposure Matrix(JEM:職業 - ばく露マトリックス)の職業疫学研究における役割をめぐって」	
1. JEMの歴史と将来の展望	Timo Kauppinen(フィンランド労働衛生研究所)
2. 日本における職業疫学研究の現状とJEM構築の展望	毛利一平(産医研)

## 5. 研究所の一般公開

研究所の一般公開を、多くの方が参加しやすい科学技術週間の土曜日である平成15年4月19日(午前と午後の2回)に実施し、主要な研究成果を分かりやすく紹介するとともに、音響振動実験棟や人工環境室をはじめとする大型の研究施設を公開した。一般公開にあたり、タウン誌や研究所ホームページ等、複数のメディアによる案内と広報を行った。参加者は、研究所所在地の川崎市や地元の方々等の約80名であった。一般公開を実施することにより、今後とも研究所の透明性を確保するとともに説明責任を果たして行きたいと考えている。

公開内容(午前と午後で同一)	担当者氏名
1. 産業医学総合研究所の概要	外山みどり
2. 講演	
(1) 職場とアレルギー	三枝順三
(2) 過労死を防ぐ 働き過ぎをチェックするポイント	岩崎健二
(3) 働く人の腰痛とその防ぐ方法 機械や器具の利用	岩切一幸
3. 質疑応答	斉藤 進, 小川康恭, 本間健資, 小泉信慈, 神山宣彦, 三枝順三, 岩崎健二, 岩切一幸, 久永直見, 島村憲義
4. ポスター展示	猿渡雄彦, 鷹屋光俊, 山田博朋, 王 瑞生, 田井鉄男, 吉田吏江・ 小川康恭, 齊藤宏之, 小野真理子, 奥野勉, 上野 哲, 大谷勝己
5. 所内見学	引率者: 鈴木 薫, 古瀬三也, 原谷隆史, 須田 恵, 金田一男, 小林健一, 柴田延幸
(1) 工学実験施設	前田節雄
(2) 音響振動実験施設	芹田富美雄
(3) 電子顕微鏡室	澤田晋一
(4) 人工環境室	田井鉄男, 中田光紀, 岡 龍雄, 岩崎健二, 久永直見
6. 体験コーナー	

## 6. 見学者への対応

平成 15 年度に団体並びに個人として研究所を見学した例は、下記のとおりである。

- ・ 厚生労働省労働衛生専門官研修(28 人, 講義と所内研究施設見学)
  - ・ 厚生労働省安全衛生部長と同化学物質調査課課長補佐(2 名, 研究所紹介と所内研究施設視察)
  - ・ WHO フェローシップ研修(1 人, GLP/Laboratory Quality Systems)
  - ・ WHO 派遣中国厚生省職員(2 回(各 3 人), 研究所紹介, 講義と所内研究施設見学)
  - ・ ILO 視察団(8 人, 労働及び雇用政策行政フェローシップ・プロジェクト労働安全衛生に関する視察)
  - ・ JICA 公衆衛生行政管理セミナー研修(13 人, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ JICA 労働安全衛生政策セミナー研修(8 人, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ 川崎北部ロータリークラブ会員(34 人, 研究所紹介と所内研究施設見学),
  - ・ 日本労働安全衛生コンサルタント会神奈川支部会員(24 人, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ 川崎市立長尾小学校(3 年生 20 人と引率者 1 人, 研究所)
  - ・ スウェーデン国立労働生活研究所研究員 研究交流会に伴う所内見学(2 人, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ タイ王国厚生省職員(2 名, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ ドイツ アーヘン工科大学学生(2 名, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ 韓国浦項製鉄 KK 産業保健担当者と顧問(5 名, 所内視察)
  - ・ ISO/TC94/SC13WG6(バイオハザード保護服)委員と保護服研究会会員(50 名, 講演と所内研究施設見学)
  - ・ 鹿児島大学医学部教授(兼鹿児島労働局労働衛生指導医)と鹿児島労働局職員(2 名, 研究所紹介と所内研究施設見学)
  - ・ 東京大学医学部学生(3 名, 研究所紹介と所内研究施設見学)
- その他, 取材等による見学者を随時受け入れた。見学に際しては, 希望者の専門分野及び要望等に応じて, 柔軟に対応した。